

ΠΡΟΠΥΛΑΙΑについて



προπύλαιαは神殿に入る門を指す、したがってそれはちょうど日本の寺の山門に相当するものである。しかし建築構造に目を向けるならば、楼門が訳語としてはふさわしい。古代エジプトの宮殿の入り口の楼門についてのヘロドトスの記述を紹介しておこう。

「ミューケリノスについてエジプトの王になったのは、アシュキスであると司祭たちは語っていた。彼はヘバイストス神のために東の楼門を建築したのだがそれはもっとも美しく、最も壮大なものであった。どの楼門も彫られた彫刻品やその他の無数の建造物で飾られているのだが、規模の大きさという点で、アシュキスが建てたそれは最高のものだった」（ヘロドトス「歴史」2,136）

ペリクレスはデロス同盟の豊富な共同資金を使って、バルテノン神殿に代表される、神々に捧げる数々の建造物やアテネとビレエフスを結ぶ長壁を築いたのだが、アクロポリスのプロピレアは、ムネスクレスが工事の監督にあたり、5年で竣工させた、とブルタルコス述べている。

多くの観光客が訪れるためにつるつるに光り、へこんでいる大理石の階段を、滑らないように用心しながらこのプロピレアを通り、バルテノン神殿の前に立ったとき、まず思い出したのは、紀元前430年の冬、戦没者の国葬においてペリクレスが行った格調高い戦没者追悼演説文中の ευνελών τε λέγω τῆν τε πᾶσαν πόλιν Ἑλλάδος παίδευσιν εἶναι「総括して言うところのポリス全体がギリシャの学校である」（トゥキュディデース「歴史」2,41,1）というあの名文句である。

ホメーロスから始まって現代にいたるまでの長い歴史と伝統を持ち、偉大な文化を育んできたギリシャ語・文学をめぐるわたしたちの研究成果を、それはたとえ微々たるものに過ぎないにせよ、発表する機関誌の名称として、プロピレアを選んだことの意味は、その辺りに見いだされるような気がする。

T.T.